令和6年度 伊那市立新山小学校評価表

学校関係者評価；(A：十分達成された B：ほぼ達成された C：不十分であった) 自己(項目間相対を加味した到達度)評価(a：十分達成された b：ほぼ達成された c：不十分であった)

学校教育目標	重点目標(中長期的目標)
たくましく 心豊かな 新山っ子	◆考える力の活性化 子ども達の力を捉え、学校・家庭・地域が相互に高め合う新山教育 学校・家庭・地域から学び、学校・家庭・地域を支え、元気になる新山っ子を育てる
	今年度の重点目標
	(1) 考えよう ・自ら考え、計画し、実践できる力の育成 ・自分の考えを伝え合い、広げ深め合う学習活動の重視 ・粘り強く最後までやり抜く力の育成 ・自戒自律の心と「思いやり」の心の育成
	(2) やってみよう ・思考力・判断力・表現力の育成 (伝え合う)(目標設定・自立)(柔軟性) 「わかった」「できた」喜びのある学習 ・体験を通した学び・地域に出て地域とふれ合い新山を知る ・暮らしのなかの食・日常的な農業体験 ・交流や集団行動において相手意識を持って進んで活動 ・ICT機器の積極的な活用 ・体力向上に向けての継続的な試み
	(3) つながろう ・心を届ける挨拶、返事、歌声の奨励 ・伝え合うことによるつながり ・聞く、話す、対応することの重視 ・積極的な発表、発言 ・支え合える仲間関係の育成 ・学年を超えた仲間づくり ・保育園や地域の人達との交流・新山の良さ、自分たちの学びの発信

総合評価	
成果と課題	評価
○本年度も「たくましく心豊かな新山っ子」を育てるために、学校重点目標に「考えよう・やってみよう・つながろう」を掲げて取り組んできた。「考えよう」では、子どもが互いに思いを伝え合うことで、人との関わりを広げ、深める姿をめざして、友達の話していることをまずは受け止めたうえで自分の意見を話すことを大切にしてきた。「やってみよう」では、地域の講師の協力を得ながら、体験を重視した行事や授業を行った。「つながろう」では、朝のあいさつや児童会スローガン(「なかよし」・なかまを大切に・考えてから行動する・より元気な体づくり・しっかり決まりを守る)をもとに、学年を超えたつながりや地域の人や他の学校とのつながりに取り組んだ。C S運営委員会や三界山登山道整備隊など地域の方の協力を支えに、充実した教育活動を展開することができ、子どもたちも成長してきた。	
(1) 全校児童の個別の指導計画を作成し、職員の児童一人ひとりに対する共通理解をより深めてきた。その共通基盤をもとに自分の思いを伝え合う「月目標ふりかえり集会」では、集団の一員としてよりよい学校生活を自分たちの手をつくっていくとする活動を通して、人との関わりを広げたり、深めたりする力を伸ばしたりしてきた。日々の授業の見直しを行い、「対話的な学び」を大切に考え、児童が繋ぎ言葉を使い、互いの意見の相違や多様な考え方を大切にしながら、合意形成を図れる話し合いにも取り組んできた。	A b
(2) 「暮らしのなかの食」の取り組みでは、カレーパーティー・焼きいもキックベース大会など自分たちで育てた物をいただく行事が根付いている。そこにキノコ採り、竹の子採りなどの体験も取り入れた行事が実施できた。学級の畑や田でとれた物を使っての調理実習など暮らしの中に食が息づいている。総合や生活科の活動を通して地域の方を講師にお迎えし、地域の方と触れ合いながら作物を育てる喜びを味わった。地域素材の教材化として、1年生のカナヘビの飼育、2年生の育てた大豆を使った納豆作り、3年生の地域の竹を使った流しそうめんの道具作りや箸の製作、4年生の蚕の飼育、地域講師にお預りして地域の歴史や文化を巡り、5年生の白毛餅作りなど、積極的に新山ならではの活動に取り組めた。今年度も、一人一台の端末配備となった環境を活用し、スクールタクトを使った各教科での実践、AIドリルの活用など、ICTを効果的に活用してきた。	A b
(3) 今年度も、児童会の「おはよう玄関」は、毎朝児童代表・校長が、玄関に立って大きな声であいさつをして、子どもたちを迎えている。「さよなら玄関」で「今月のベストあいさつさん」等の互いの良さを認め合う場を大事にできた。新山保育園や地域の人達との交流(ジャガイモ植え、カレーパーティー、サツマイモ植え掘り、焼きいもキックベース大会、新山大運動会、新山フェスティバル)を通して、相手意識を培うことができた。保育園との交流や新山フェスティバルに向けた製作活動や販売活動、遊びコーナーでの取り組みを通して、相手に合わせた対応や工夫を意識して活動することができた。	A b

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育課程	教育課程	○児童の実態や本校のよさを生かした教育課程の編成	○学校の日課や行事など子どもたちにとって適切なものであったか。
		○学校の教育活動への理解、伝達	○学校要覧・学校便り・学級便り・HPなどにより、教育内容や子どもたちの様子を保護者や地域にわかりやすく伝えたか。
	学習指導	○児童が主体的に取り組む授業の構築	○子どもたちが意欲を持ち、互いに学び合いながら、主体的に取り組む授業を展開できたか。
教育活動	学習指導	○児童の学習習慣の定着	○学習習慣への意識を高め、身に付けることができたか。
	生徒指導	○児童の心身ともに健全な生活の保障	○子どもたちが元気に交友し、楽しく学校生活を送ったか。
安全	安全	○児童の安全確保	○下校指導、交通安全教室等により子どもの安全への意識を高め安心安全を守ることができたか。
		○施設設備品点検管理	○管理分担の安全点検を確実にし、子どもの目線に立った施設設備品の管理をすることができたか。
運営	地域との連携	○地域との連携	○地域の方と連携し、PTA活動や各種の地域行事でお互いに協力できたか。
		○地域で学ぶ学習	○地域素材を生かし、子どもたちが地域の自然や人から学ぶ学習ができたか。
	研修	○職員の情報向上、研究・修養	○自己課題や研修で積極的に取り組み、力をめやすことができたか。
		○職員の非違行為防止	○非違行為への理解を深め、非違行為を絶対許さないという気持ちをもつことができたか。

成果と課題	評価	改善策・向上策
○体育は高学年、中学年、低学年の2連学年が体育の授業を行えるよう配慮している。 ○行事は本校ならではの行事が多数計画されている。日課は重点目標に近づけるよう、バランスよく組んである。 ○集団登校の時間については、子ども達も毎日時間通りに登校している。 ○清掃が終わってドリル活動にスムーズに移れるように配慮している。	A b	○学校目標具現のための日課となっていることを職員で周知していく。 ○宿泊的行事についても旅行代等の保護者負担を考えながら、今後も5、6年生の修学旅行と臨海学習を、隔年で交互に行っていく予定。 ○来年度以降、4年生の社会見学を手良小と移動のバスを共有し、見学場所はそれぞれの計画に沿って行っていく予定である。
○学校便りでは、学校の様子を分かりやすく内容にまとめて、地域の人に知らせることができた。学級通信も全学年が毎週定期的に発行し、児童の様子や予定等を知らせた。また、HPは、できるだけ最新の情報を発信してきた。「新山小ライジングプラン」を作成し、地域、保護者と共有した。	A a	○HPだけでなく、各クラスでも、新山の良さを学び、地域や地域外に発信していく取り組みをしていきたい。学級便りや学校便りを定期的に発行し、情報公開を行い、地域の皆さんとの連携を深めていくようにする。また、新山小ライジングプランの取組の様子を確認していく。 ○市教委とも連携して、学校見学がいつでもできるよう公開を呼び掛けていく。
○全校研究テーマを「自分の考えを広げたり深めたりする力を育む指導・支援のあり方」とし、学級活動における対話的な学びを実現するために各クラスで授業を公開し、学級で決めた目標達成のために課題を考え、話し合い、集団としての解決方法を、合意形成を図って決定したり、自分の実践目標を意思決定したりするなど授業改善を図ってきた。 ○毎月行われる月目標ふりかえり集会を中心として、児童に対する共通理解を深めることができた。	B b	○子ども達が単元を通して目的意識を持って主体的に学習に取り組めるように、教材研究を工夫していきたい。 ○課題の提案自体を児童が行い、子ども達が自分達自身の問題であるという意識を持たせることも学級活動では大切になる。教師は事前の司会者との打ち合わせで、支援をしておく。そうすることが、学級の問題を自分たちで解決した学級活動になっていくと思われる。 ○子ども達は何かをつなげて思考している。他教科とのつながり、各教科等における見方・考え方を働かせる授業を積み重ねたい。
○PTAや家庭と連携してノーテレビ・ノーゲームデーを年6回に行い、各家庭で目標を設定しノーテレビやノーゲームに取り組んできている。 ○「家庭学習の手引き」を作成し、学級懇談会などを通じて家庭での学習習慣定着を呼びかけた。その日に学んだことを家庭学習に行うように配慮している。	B b	○PTAや家庭と連携し、ノーテレビ・ノーゲームデーの推進を行う。また、家庭学習に自ら取り組めるように、その日学んだことを宿題に出したり、授業の終末段階でその日の宿題についてふれたり、高学年は、自学ノートを行ったりするなど、進んで取り組むための工夫をする。
○ほとんどの児童が楽しく学校生活を送ることができた。授業だけでなく学校行事に向けての取り組みなどが充実し、子どもが張り合いを持って登校する気持ちにもつながった。 ○職員会議等では、毎回「子どものことから」の時間をとり、子どもの状況について細かく情報交換を行った。	B b	○全職員が全児童の担任であるという共通理解のもと、個々の児童の心身の状態に気を配り、気になることは即座に職員間で情報交換を行い、一人ひとりの児童が楽しい学校生活を送れるようにする。 ○何かあった時には、すぐに全職員に周知し、皆で力を合わせて解決していく。
○児童会本部が、毎週一番さわやかなあいさつができていた児童を選んで、下校指導等に全員の前で紹介する活動に取り組んだ。 ○児童会活動の「プレイザゲーム」、「ミニ運動会」などで、上の子どもたちが下の子どもたちの面倒をみる伝統が位置付けている。	B b	○児童の活動との連携を図るとともに、児童や保護者にアンケートを行い、いじめの早期発見に努めるとともに、発見されたいじめや子ども同士の意識の違いに対しては、SC、SSWなど外部機関と連携しながら、全職員で協力して解決に努める。 ○また、児童理解のための研修も継続していく。
○職員が、放課後当番で児童の下校を見守ってきた。PTA校外指導部による危険箇所点検、地域安全マップづくりを行い、今年度も交通事故が1件もなく過ごすことができた。 ○年度当初の呼びかけにより見守り隊に登録された方々が、自分のお子さん以外の子も見守ってくれている。	A a	○気をゆるめることなく安全対策を図っていく。通学路の安全が確保できるように見守り隊の方との連携をさらに図っていく。 ○通学路の工事、ちょっとした異変も職員室においてすぐに情報共有し、職員で児童の集団登下校が安全にできるように配慮していく。
○毎月の安全点検により校舎内外の危険に目を配った。 ○修理箇所は、教育委員会に対応をお願いしたり、校務技師が調整に対応し修理したりした。 ○新山は冬季の寒さが厳しいので、水道の凍結防止の対応やパレットストープの管理について、その時々、相談し合いながら忘れずに取り組むことができた。	A b	○職員による毎月の安全点検を、担当場所を変えるなど工夫して確実に「危険箇所の早期発見」に努め、早めに対処していく。 ○必要に応じて、市教委とも連絡をとり危険箇所の改善を早めに進めていく。 ○除雪については、地域と連携しながら、児童の登下校に配慮して進め、年度末に管理職が感謝の気持ちを伝えることを忘れない。
○PTAや保育園の協力を得て準備し、新山大運動会を実施できた。 ○C S運営委員の皆様や同窓会の役員のお力をお借りし、校庭や校庭の周りの整備や、郷土館の整備を行うことができた。 ○新山フェスティバルでは、地域の人達と共に地域のお祭りを盛り上げることができた。 ○竹の子採り、ハッチョウトシボの観察会、キノコ採り、地域探検、しめ縄作りなどを通して、地域の方から地域の自然や伝統文化について学んだ。 ○新山探検・新山川に出かけ、自然とふれあう活動を行った。竹の子取りや秋の自然に親しむ日では、地域の人達と共に竹の子やキノコを自然の恵みに感謝していただいた。	A a	○地域の各種団体や地域の皆さんの協力をうけて、地域と連携した活動を進めて、たくましく心豊かな新山っ子を育てていきたい。 ○地域に「していただく」だけでなく、児童が地域に貢献できることを模索していく。
○外部講師(地域、警察、学校医)による研修会、講演会を行い、不審者対応に関わった実践や新山の文化や歴史を学んだり、教師としてのあり方や人間性の向上を求めたりしながら取り組んできた。	A b	○地域を知ることから始め、地域の教材から学び、心こもるさを創る学習に各学級で取り組むようにしたい。 ○新山小学校C S運営委員会を年5回開催して、その中で各学級が取り組んでいるふるさと学習に対する支援方法を検討していただきたい。
○年間計画に基づいて資料や音議の形態を変えるなどの工夫をしながら研修を継続的に行った。	A a	○教員としてより人としての研修も大切にしてきた。ICT教育を含めた研修を来年度年間計画に位置づけ、職員一人ひとりの力量を高め、人としての在り様を学んでいく。 ○外部の研修にも積極的に参加していきたい。
		○具体的な事例や周囲の人への影響などを繰り返し扱うことで、より自分自身のこととして考えられるような内容の研修を行い、本校職員が非違行為を行うことがないようにする。